

放射性セシウムの追加的放出量 (Bq/時)

福島県原子力安全対策課
平成26年3月27日更新

東京電力福島第一原子力発電所廃炉対策推進会議では、1～4号機原子炉建屋からの現時点の放出量(セシウム)を、原子炉建屋上部等の空气中放射性物質濃度(ダスト濃度)を基に評価しています。

測定は、放射性物質が舞い上がるような作業が行われていない状況及び大物搬入口も閉塞された状態で行われています。

当月実施された評価は下表のとおりであり、1～4号機の放出量の合計は、前月の約0.1億Bq/時から変化無しと評価しています。なお、これによる敷地境界における被ばく線量は0.03mSv/年と評価しています。(0.03mSv/年は30 μ Sv/年であり、時間あたりに換算すると0.0034 μ Sv/時となります。)

(1) 平成26年3月の状況

原子炉 建屋	ダスト採取場所	セシウム134 (Bq/cm ³)	セシウム137 (Bq/cm ³)	追加的放出量の 評価値 (億Bq/時)	備考
1号機	建屋カバー内 南側上部	ND (検出限界6.4 $\times 10^{-6}$)	ND (検出限界9.5 $\times 10^{-6}$)	0.007	前月は 0.004 億Bq/時
	格納容器ガス 管理システム	ND (検出限界1.9 $\times 10^{-6}$)	ND (検出限界2.9 $\times 10^{-6}$)		
2号機	BOP排気設備 システム出口	ND (検出限界3.7 $\times 10^{-7}$)	ND (検出限界5.3 $\times 10^{-7}$)	0.0002	前月は 0.0008 億Bq/時
	格納容器ガス 管理システム	ND (検出限界1.9 $\times 10^{-6}$)	ND (検出限界2.8 $\times 10^{-6}$)		
3号機	原子炉建屋 (原子炉直上)	3.3 $\times 10^{-5}$	7.6 $\times 10^{-5}$	0.005	前月は 0.006 億Bq/時
	格納容器ガス 管理システム	2.3 $\times 10^{-6}$	3.7 $\times 10^{-6}$		
4号機	燃料取出し用 カバー排気設備	ND (検出限界6.5 $\times 10^{-7}$)	ND (検出限界9.7 $\times 10^{-7}$)	0.001	0.001
計				約0.1	前月から 変化無し

(問い合わせ先 024-521-1917)